平成 24 年 7 月 13 日

岡山県感染症週報　2012 年 第 27 週（７月２日～７月８日）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2012 年　第 27 週（ 7／2 ～ 7／8 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 26 週　２類感染症　結核　４名（ 50 代　男　１名・女　１名、70 代　男　２名 ）
第 27 週　２類感染症　結核　３名（ 30 代　女　１名、50 代　男　１名、60 代　女　１名 ）
３類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　３名
（ O157 ： 60 代　男　１名・女　１名、不明：30 代　男　１名 ）
４類感染症　レジオネラ症　１名（ 60 代　男 ）
５類感染症　アメーバ赤痢　１名（ 80 代　男 ）
梅毒　１名（ 80 代　男 ）

■定点把握感染症の発生状況

○ヘルパンギーナは、４週連続で増加しました。
○手足口病は、徐々に患者が増加してきました。
○感染性胃腸炎は、県全体では前週とほぼ同数ですが、倉敷市で患者が増加しています。

【お知らせ】

○夏休み期間中に海外へ渡航される方向けの感染症情報が厚生労働省検疫所のホームページからご覧いただけます。（厚生労働省検疫所「海外で健康に過ごすために」「夏休みに海外へ渡航される皆さまへ」）

---

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 27 週に 3 名、今年は 7 月 11 日までに 18 名の発生がありました。岡山県では「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年 7 月・8 月は、1 年で最も発生が多くなることから、特に注意が必要です。症状、予防法など詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、第 24 週以降増加がつづいています。今後さらなる増加が懸念されますので、県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。詳しい症状などは**「今週の注目感染症」**をご覧ください。
3. **手足口病**の定点あたり患者数は、過去 10 年の同時期に比べ少ないものの、徐々に増加が見られます。例年、夏に患者の増加が見られる感染症です。第 26 週現在、県内では少数で推移していますが、今後の増加が懸念されます。詳しい症状などは**「今週の注目感染症」**をご覧ください。
4. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、県全体では前週とほぼ同数でしたが（定点あたり 6.09 → 6.37 人）、倉敷市（10.64 人）、備前地域（8.70 人）で患者が多くなっています。過去 10 年の同時期に比べ、患者数が多い状態で推移しており、ひきつづき注意が必要です。
5. **海外の感染症情報**については、厚生労働省検疫所のホームページからご覧いただくことができます。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談してください。また、帰国後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

【週報グラフ表示について】

今週から、グラフ表示が切り替わります。

感染症にはそれぞれ流行する時期があります。春から秋にかけて患者が増加する感染症は、今年第 1 週～第 53 週を 1 シーズンとして、また、秋から春にかけて患者が増加する感染症は、今年第 27 週～翌年第 26 週を 1 シーズンとしてグラフを作成しています。

今回、第 27 週からインフルエンザ・RS ウイルス感染症・A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘については 2012/2013 年シーズンに表示が切り替わりました。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	→	★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	→	★★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	↘	★★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	↑	★	流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★★
マイコプラズマ肺炎	↘	★★	クラミジア肺炎	↑	★

【記号の説明】

前週からの推移：↓：2 倍以上の減少　↘：1.1～2 倍未満の減少　→：1.1 未満の増減

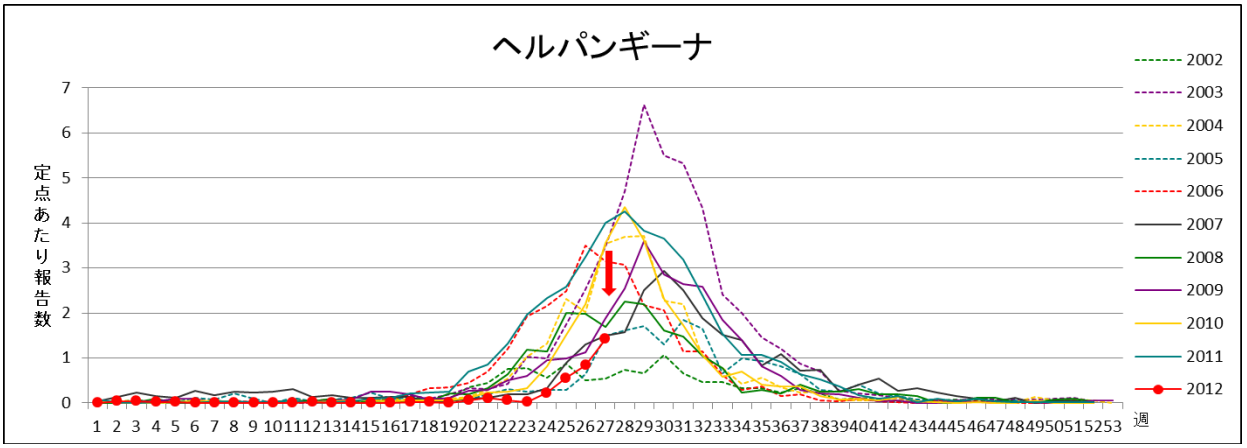
↗：1.1～2 倍未満の増加　↑：2 倍以上の増加

発生状況：　空白：発生なし　★：僅か　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い

※今週の流行状況を過去５年間と比較し、５段階で表示しています。

今週の注目感染症

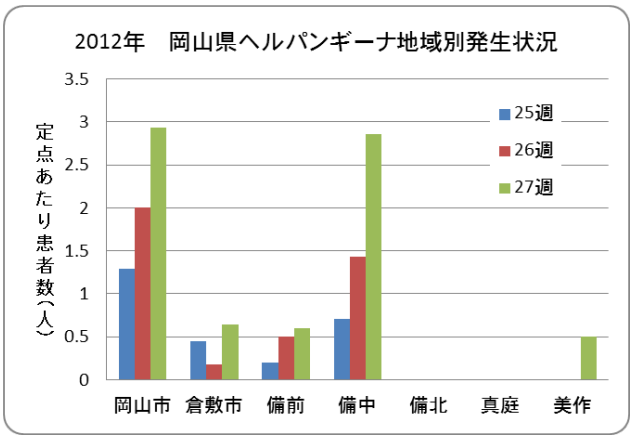
1．ヘルパンギーナ

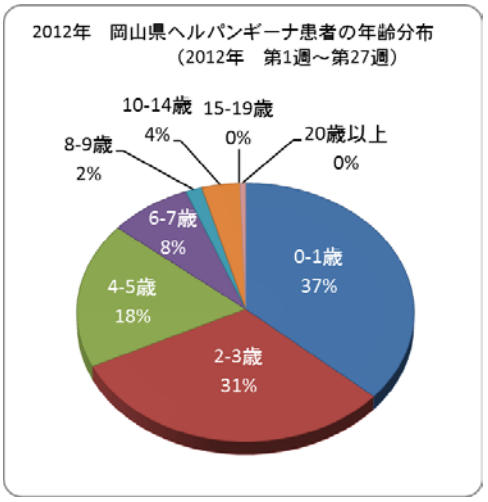


ヘルパンギーナは、定点あたり患者報告数が第 24 週以降 4 週連続で増加しました（定点あたり 0.83 → 1.43 人）。

地域別では、岡山市（2.93 人）、備中地域（2.86 人）など県南部で患者が多く見られ、特に岡山市では、県内患者全体の約半数が報告されています。年齢別では 0－3 歳の乳幼児が全体の約 68％を占めており、この年齢層を中心に感染が拡大しています。

岡山県では、過去 10 年に比べ流行の立ち上がりが遅かったものの、患者増加が始まった第 24 週以降は例年同様の増加傾向が見られます。7 月から 8 月に流行がピークになる感染症であり、今後、さらなる増加が懸念されます。県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めましょう。





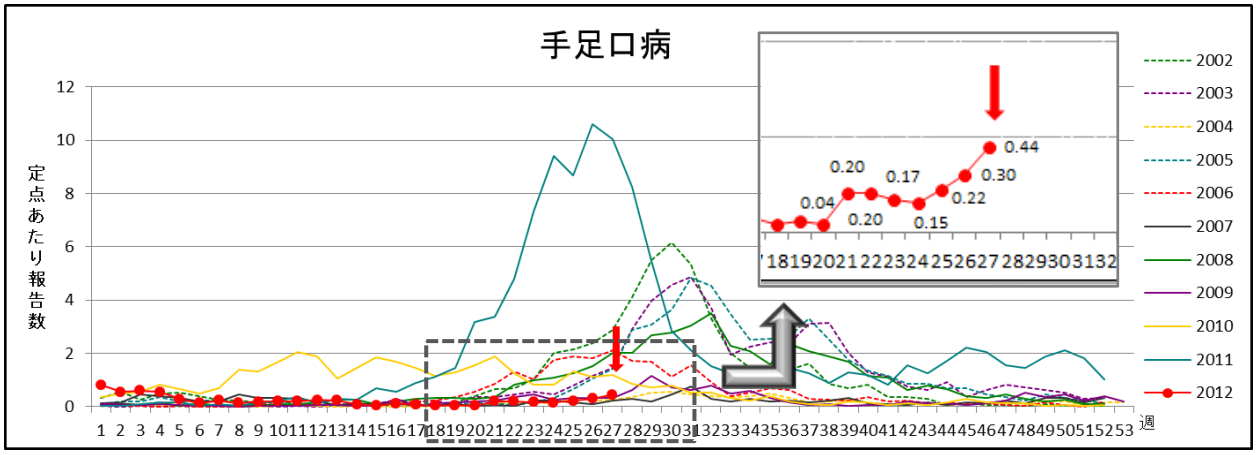
【ヘルパンギーナとは】

夏（7 月頃）に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A 群コクサッキーウイルスなどが原因となります。

突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径 1～2mm の赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常 2～4 日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。

主な感染経路は、患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染です。

2．手足口病



手足口病は、通常 5 月中旬に患者が増加し始め、7 月中旬から下旬にピークを迎え、8 月に入ると減少していくという経過をとります。2011 年は全国的な大流行となり、岡山県でも患者数が過去 10 年平均の約 3.5 倍と、過去に例のない大流行になりました。2012 年は、第 27 週現在、はっきりとした流行の立ち上がりが見られず、患者も少数で推移しています。しかし、第 24 週頃から徐々に患者増加が見られ、例年患者が増加する時期になることから、今後の動向に注意してください。

【手足口病とは】

夏に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因になります。

3～5 日の潜伏期の後、口腔粘膜、手のひら、足底や足背に 2～3mm の水疱性発疹が出現するのが特徴です。発熱は軽度で、38℃以下のことがほとんどです。3～7 日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特にエンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系合併症など重症化する割合が高いと言われています。

主な感染経路は、患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染です。特別な予防法はなく、患者との濃厚な接触を避ける､うがいや手指の消毒・手洗いを励行することで予防できます。

○ヘルパンギーナ・手足口病など、夏に流行が見られる感染症が増加しています。どちらの感染症もウイルスに対する効果的な治療法はなく、対症療法のみです。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながることがありますので注意が必要です。

○保育園、幼稚園などでは集団発生する可能性もあります。症状が治まっても、便の中には 2～4 週間ウイルスが排泄されることがあります。うがい・手洗いを励行し、おむつや便の取り扱いに注意して、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数 2012年 27週 （2012/07/02～2012/07/08）

2012年7月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	–	–	1	0.06	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
RSウイルス感染症	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	15	0.28	11	0.79	–	–	2	0.20	–	–	2	0.50	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	17	1.21	16	1.45	3	0.30	2	0.29	1	0.25	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	344	6.37	56	4.00	117	10.64	87	8.70	29	4.14	16	4.00	13	6.50	26	4.33
水痘	62	1.15	21	1.50	7	0.64	4	0.40	10	1.43	2	0.50	2	1.00	16	2.67
手足口病	24	0.44	13	0.93	4	0.36	2	0.20	4	0.57	–	–	–	–	1	0.17
伝染性紅斑	6	0.11	2	0.14	–	–	1	0.10	–	–	3	0.75	–	–	–	–
突発性発疹	34	0.63	13	0.93	9	0.82	7	0.70	–	–	1	0.25	1	0.50	3	0.50
百日咳	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	77	1.43	41	2.93	7	0.64	6	0.60	20	2.86	–	–	–	–	3	0.50
流行性耳下腺炎	27	0.50	9	0.64	5	0.45	6	0.60	6	0.86	–	–	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	1	0.08	–	–	1	0.25	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	1	0.25	1	1.00	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	1	0.20	–	–	1	1.00					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	2	2.00	1	1.00					2	2.00	–	–	–	–
クラミジア肺炎	1	0.20	–	–	1	1.00					–	–	–	–	–	–

（－： 0 or 0.00） （空白 ： 定点なし）

保健所別報告患者数 2012年 27週 （ 2012/07/02～2012/07/08 ）

2012年7月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	–	–	1	0.06	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	15	0.28	11	0.79	–	–	2	0.20	–	–	2	0.50	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	17	1.21	16	1.45	3	0.30	2	0.29	1	0.25	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	344	6.37	56	4.00	117	10.64	87	8.70	29	4.14	16	4.00	13	6.50	26	4.33
水痘	62	1.15	21	1.50	7	0.64	4	0.40	10	1.43	2	0.50	2	1.00	16	2.67
手足口病	24	0.44	13	0.93	4	0.36	2	0.20	4	0.57	–	–	–	–	1	0.17
伝染性紅斑	6	0.11	2	0.14	–	–	1	0.10	–	–	3	0.75	–	–	–	–
百日咳	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	77	1.43	41	2.93	7	0.64	6	0.60	20	2.86	–	–	–	–	3	0.50
流行性耳下腺炎	27	0.50	9	0.64	5	0.45	6	0.60	6	0.86	–	–	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	1	0.08	–	–	1	0.25	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	1	0.25	1	1.00	–	–					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　　を示しています。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2012年　第27週　 2012/07/02～2012/07/08 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	-	1	5	-	3	1	1	1	1	1	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	-	-	1	7	8	6	7	6	4	1	3	10	-	1
感染性胃腸炎	344	5	22	55	36	35	37	24	20	12	13	9	29	11	36
水痘	62	2	2	11	12	9	8	2	2	3	3	1	5	-	2
手足口病	24	-	1	8	3	1	3	2	2	1	-	3	-	-	-
伝染性紅斑	6	-	1	1	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-
突発性発疹	34	-	17	15	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	77	-	6	17	12	8	13	11	5	1	1	-	2	-	1
流行性耳下腺炎	27	-	-	-	2	3	2	5	8	2	2	1	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-

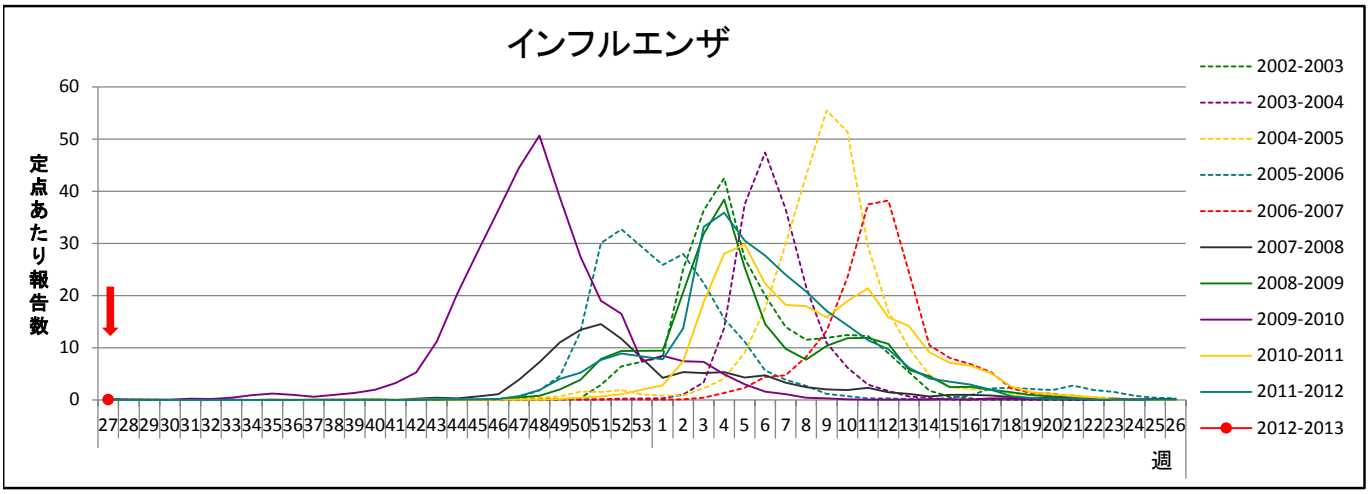
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

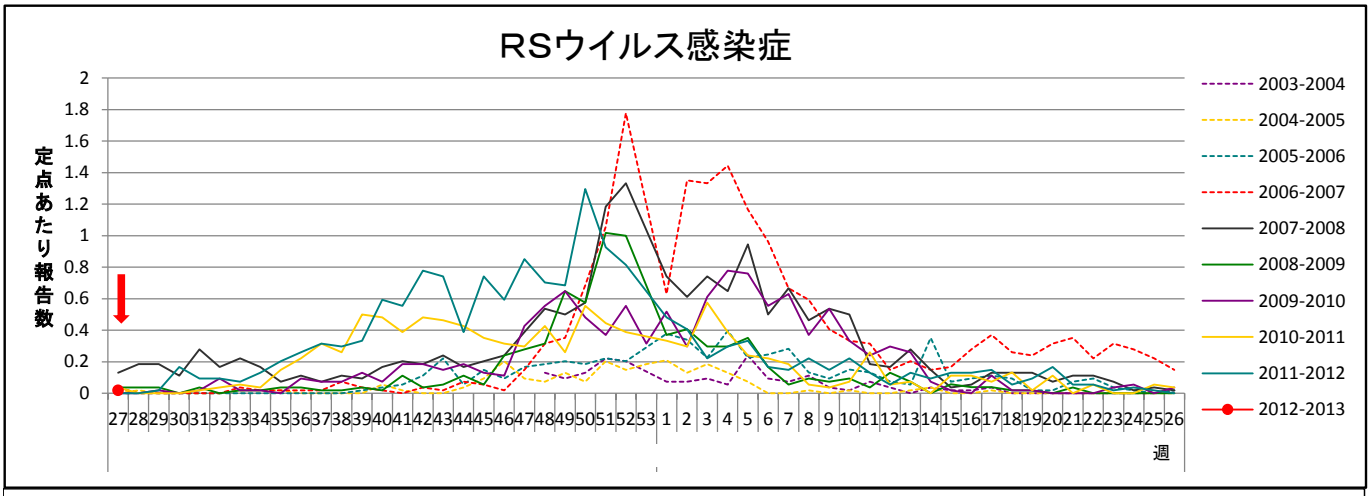
（－： 0 ）

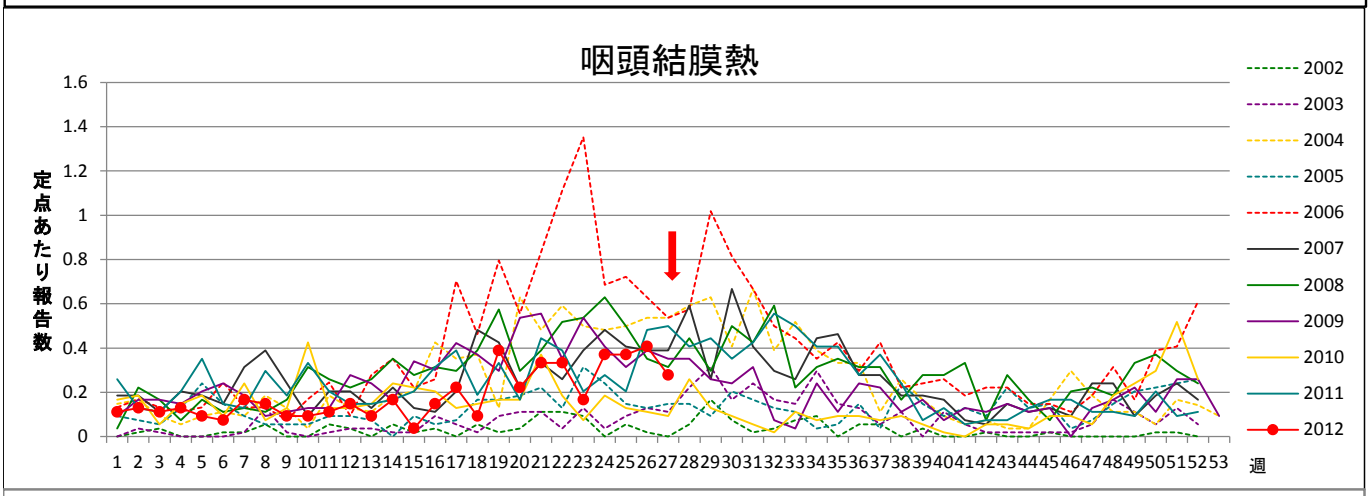
全数把握 感染症患者発生状況

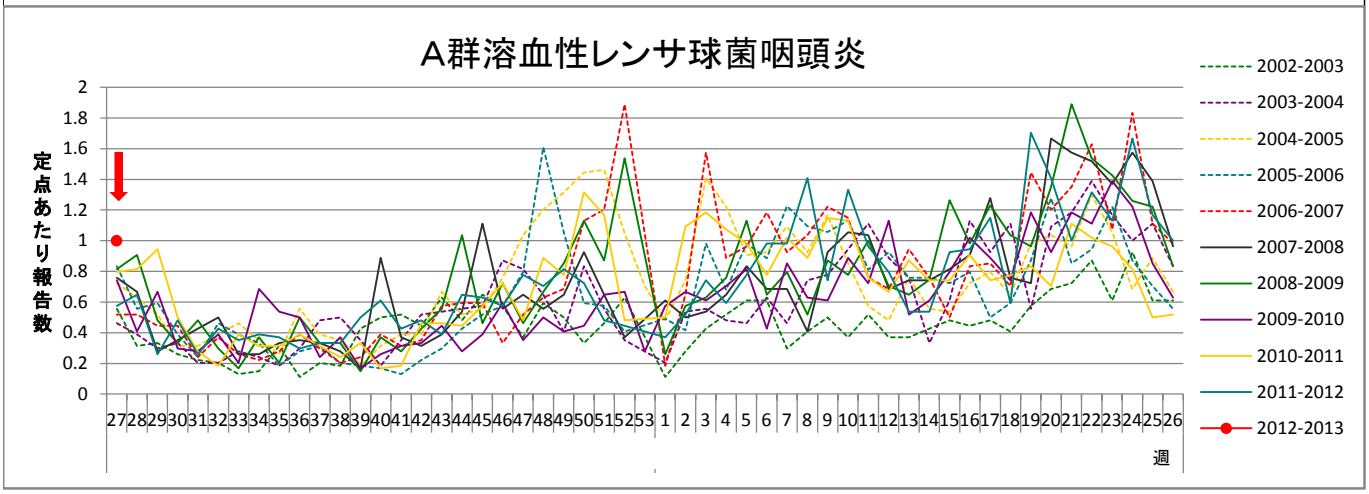
2012 年 27 週

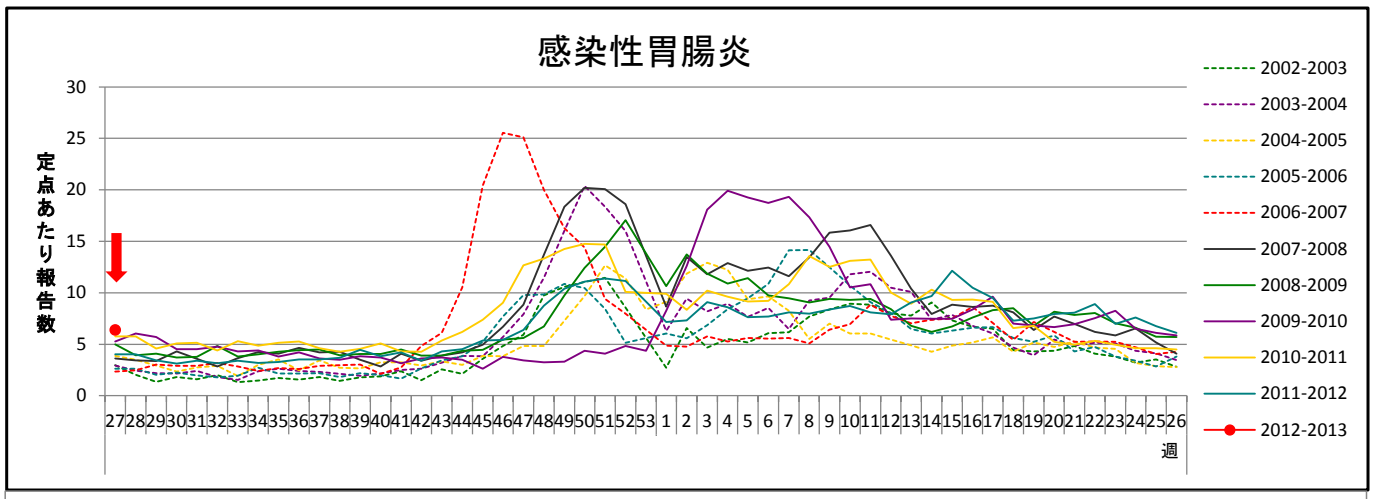
分類	疾病名	2012 今週	2012 累計	2011 昨年	疾病名	2012 今週	2012 累計	2011 昨年	疾病名	2012 今週	2012 累計	2011 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	3	230	557	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	1	腸管出血性大腸菌感染症	3	18	67
	腸チフス	–	1	–	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	–	1	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	2	3
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–
	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–
	つつが虫病	–	1	3	デング熱	–	–	–	東部ウマ脳炎	–	–	–
	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	–
	日本紅斑熱	–	–	3	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–
	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–
	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	1
	マラリア	–	–	–	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–
	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–
	レジオネラ症	1	12	37	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–
五類	アメーバ赤痢	1	9	11	ウイルス性肝炎*3	–	3	9	急性脳炎*4	–	1	3
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	–	1
	後天性免疫不全症候群	–	8	15	ジアルジア症	–	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	–	–	–
	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	1	3	9	破傷風	–	–	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	–	–	–	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	1	–	風しん	–	3	1
	麻しん	–	6	4		–	–	–		–	–	–

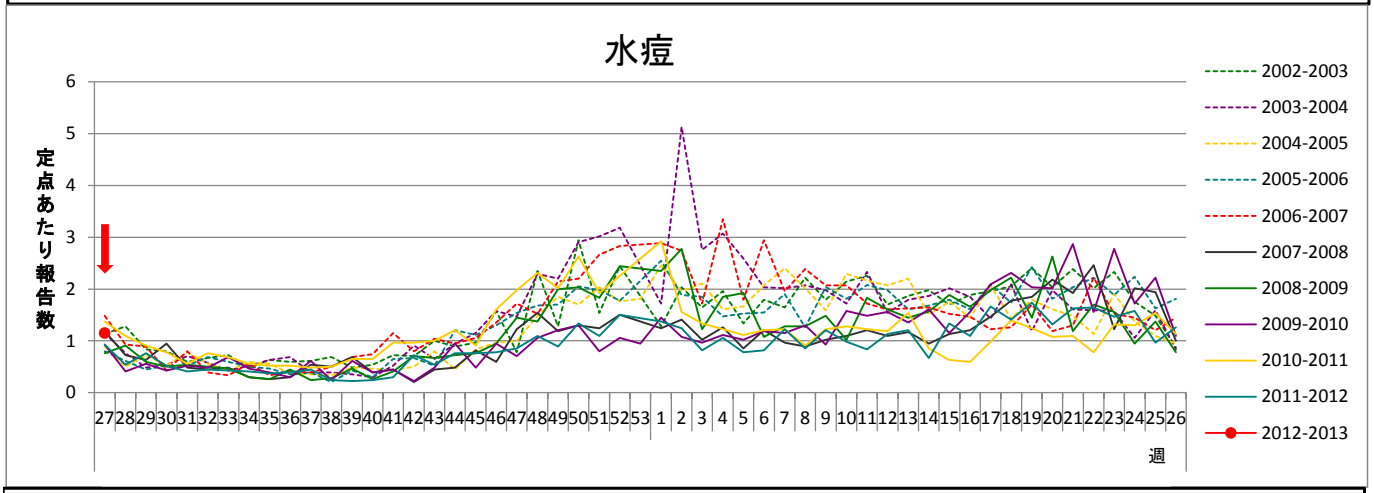

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

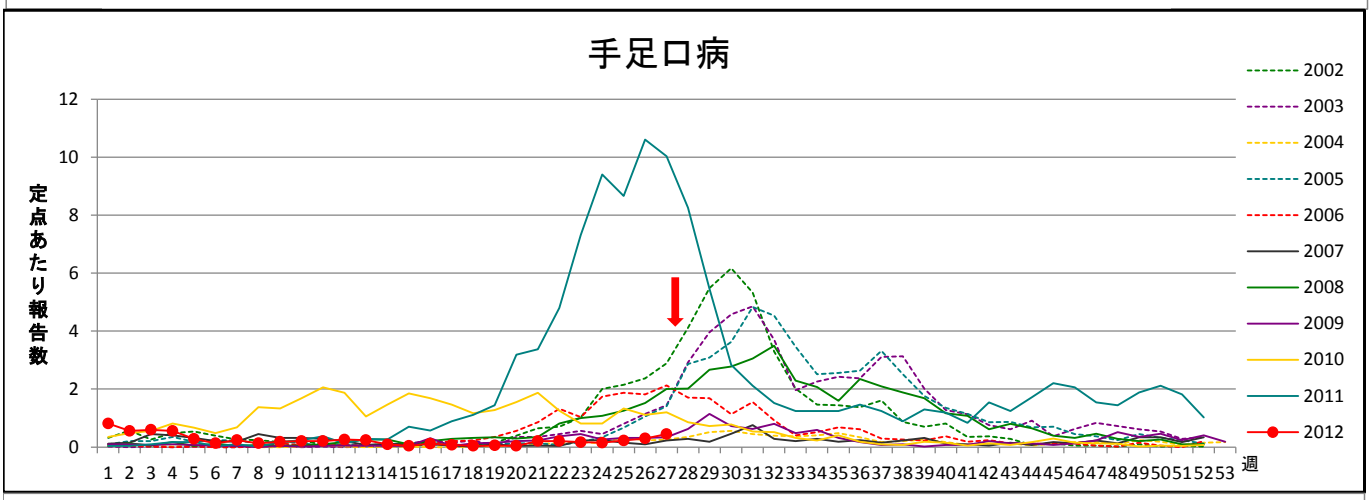

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

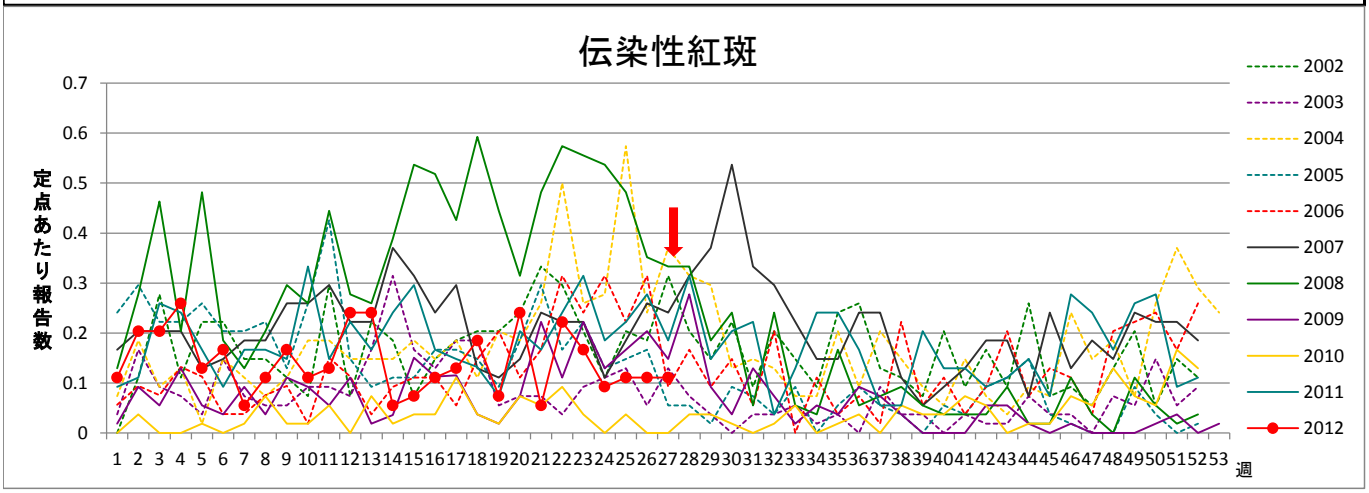

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

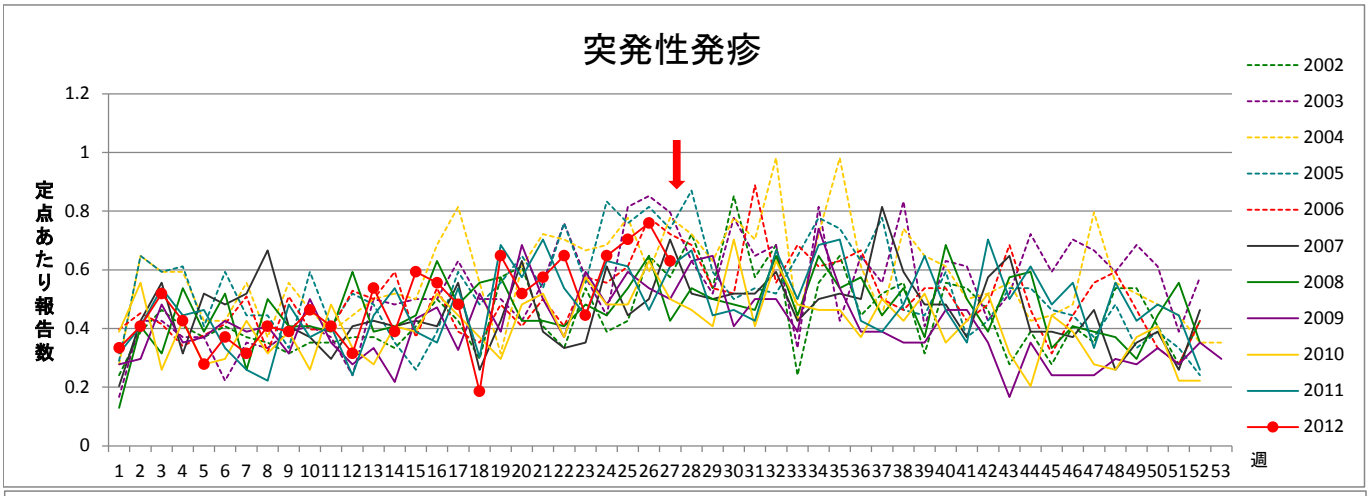

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

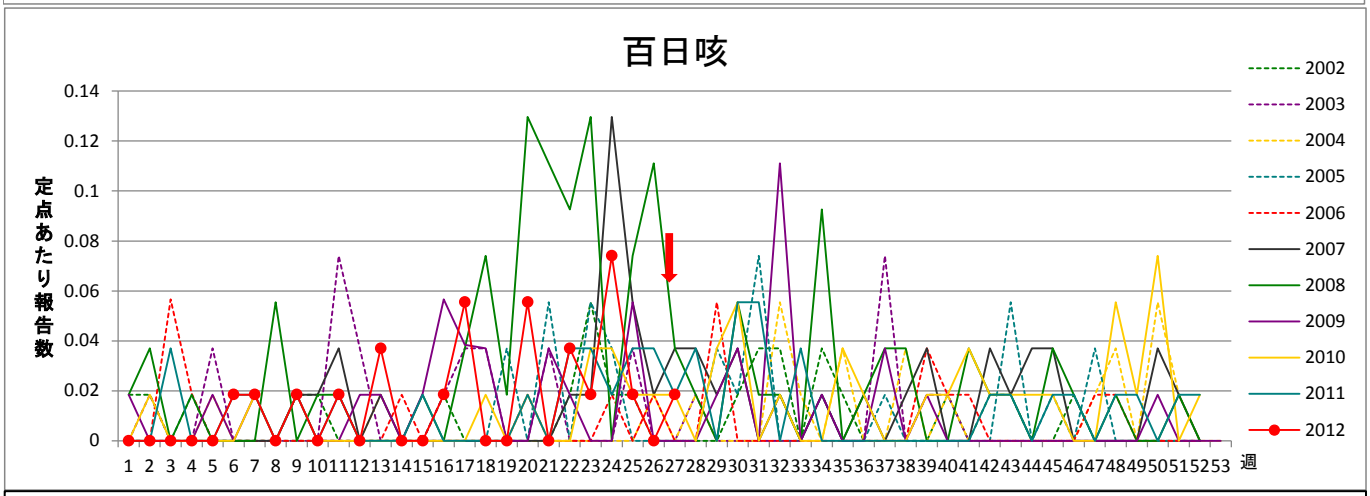

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

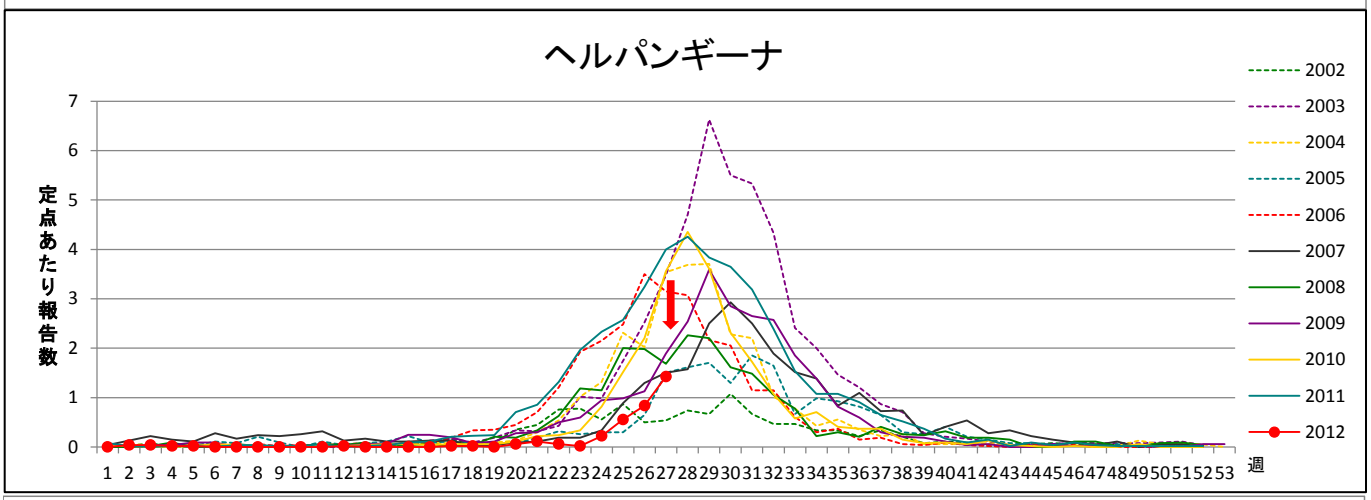

水痘
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

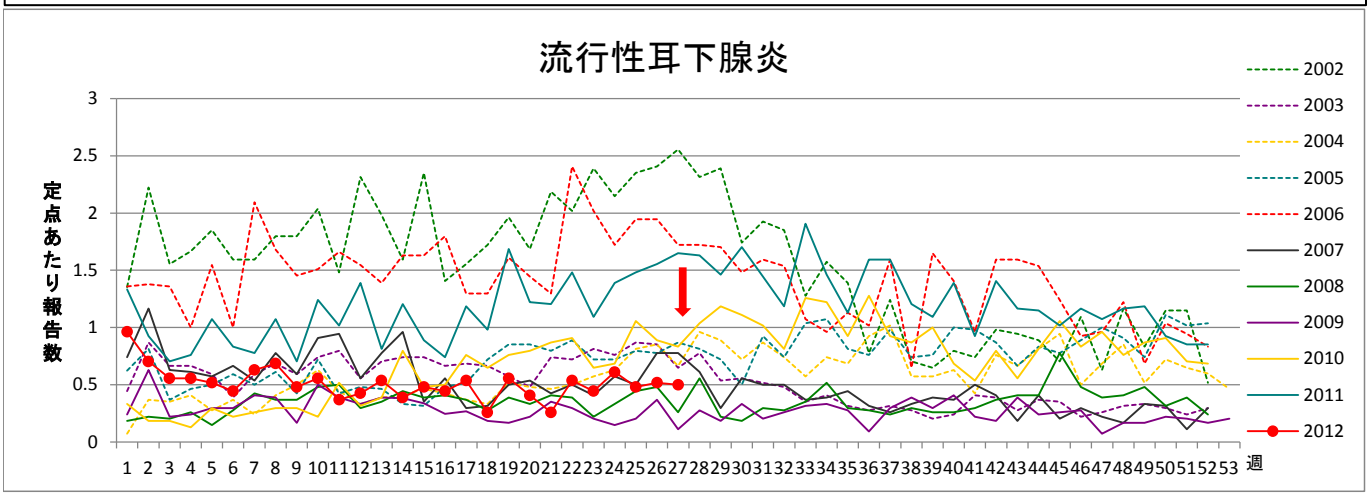

手足口病
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

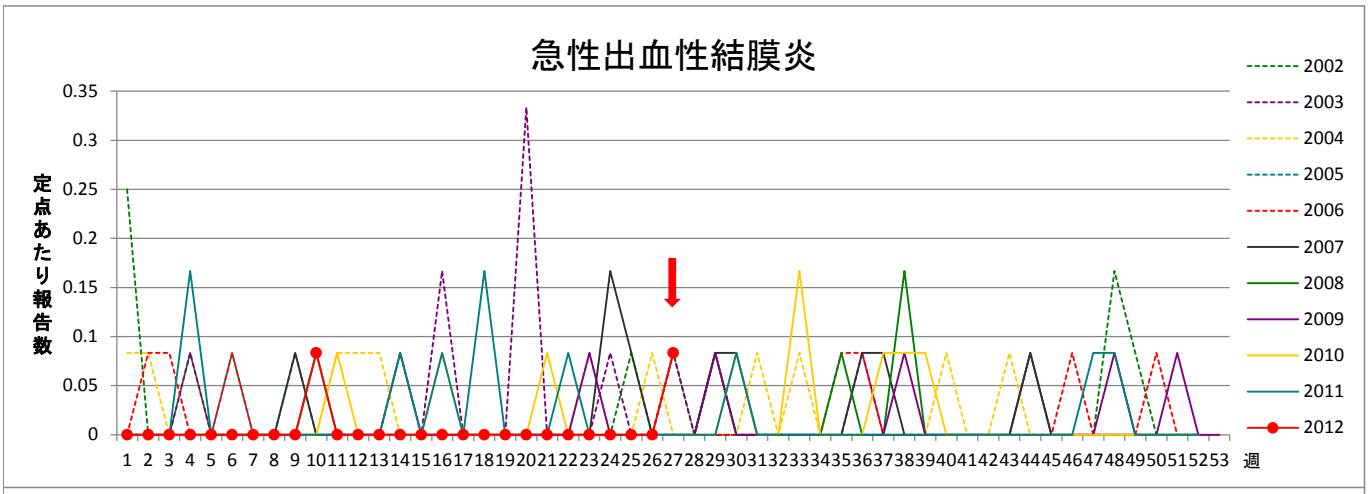

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

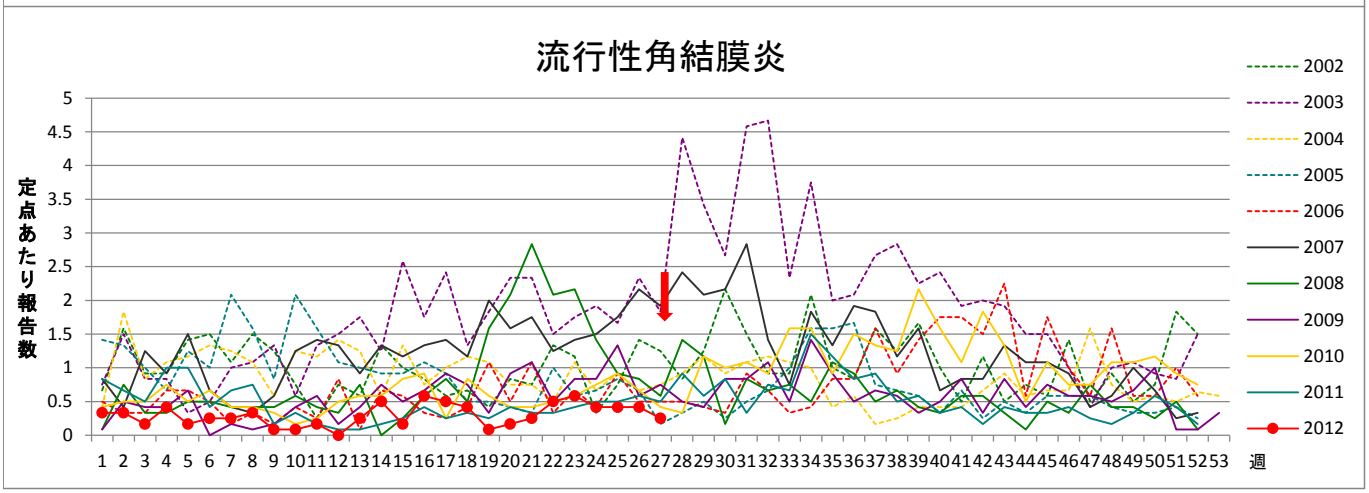

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

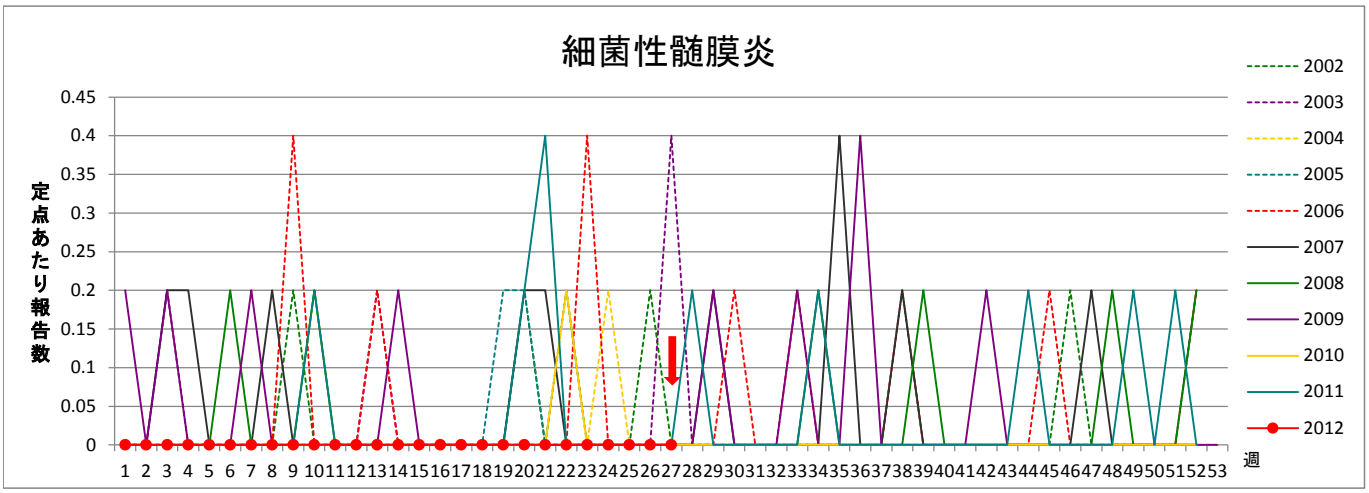

百日咳
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

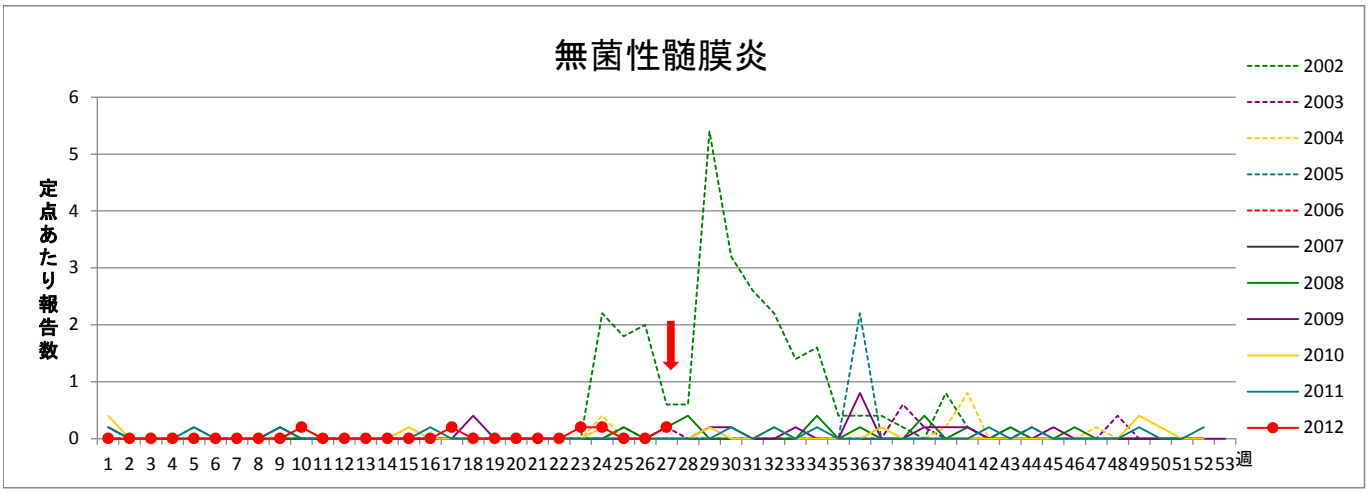

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

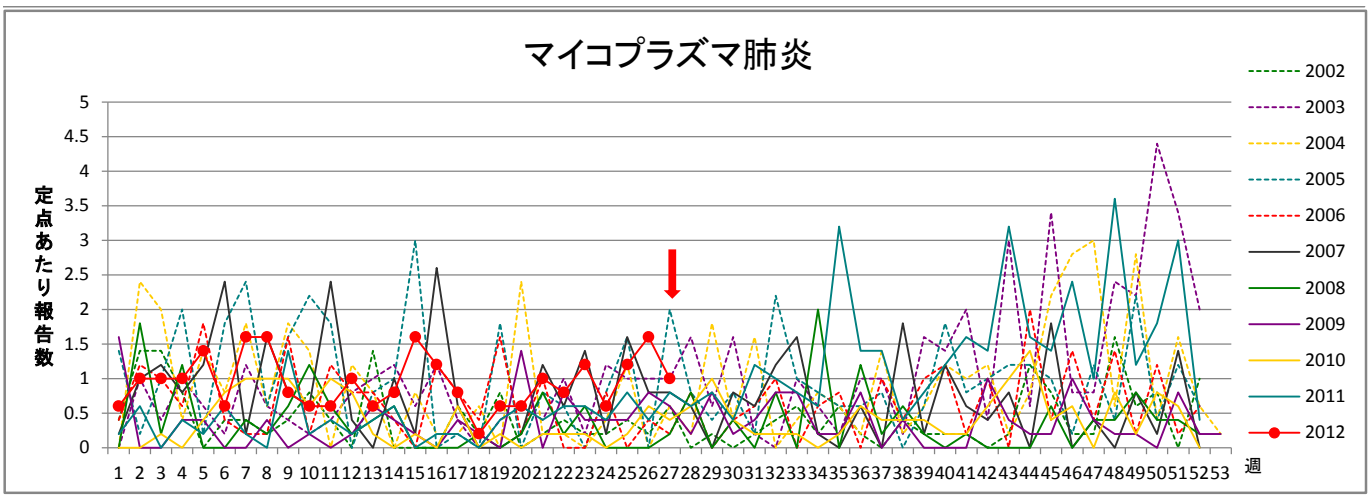

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012

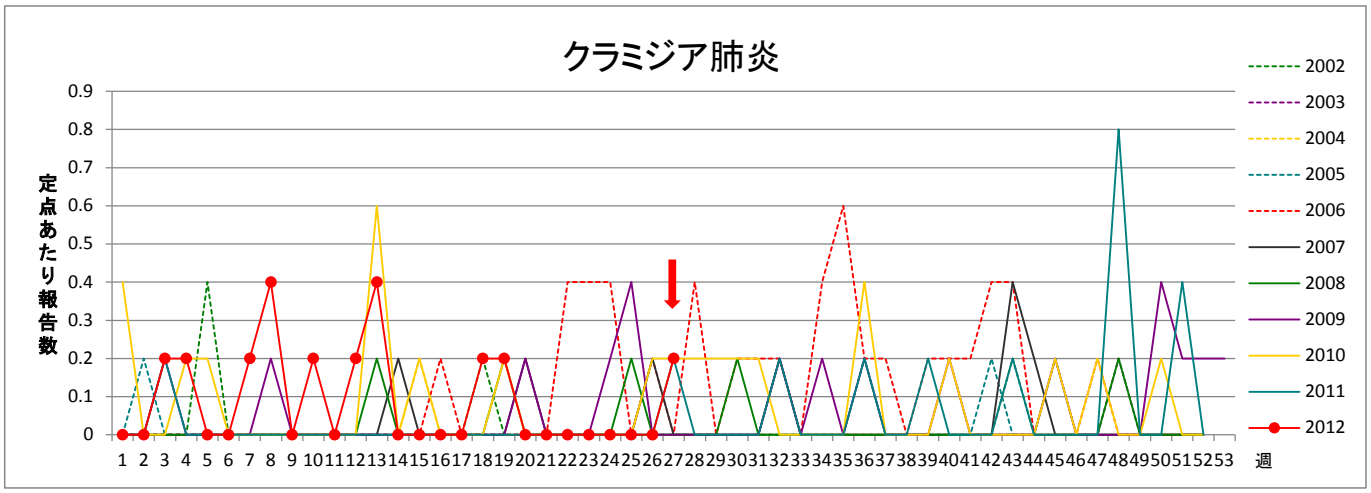

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012


流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012